

OHP 利用上のヒント 第3版

桂田 祐史

平成 15 年 2 月 17 日

1 OHP の常識

- OHP シートは、スピーチのためのメモにもなる
- 箇条書の文体
- 1 分 1 枚以下 (分野、人によっては 1 枚 3 分とも)
- 字の大きさは 1 cm 四方程度
- 一枚の OHP シートに複数の話題は載せない
- 一つ的话题を複数のシートにまたがらせないように工夫
- 専用のペン (各種の色)、消すためのペンがある
- 紙に原稿を書いて、それを OHP 用紙にコピーすることも出来る

2 勧められること

- 想定される質問に答える OHP をあらかじめ用意しておく
- 発表の際に何も書いていない OHP シートとペンを携帯する
質問への答えなど、とっさに書きたいことはその場で OHP に書く

3 勧められないこと

- 論文など元々紙に印刷する目的で組版したものをそのまま OHP に印刷する
字が小さくて読めたものではない
- 読むためにスピーチ原稿を用意する
会場は暗いことが多いのでうまく読めないことが多い
- 黒板と OHP を併用する
照明をいじるのは手間がかかるし、目にも負担がかかる

4 卒研発表会向けの注意

先立つものについて

- OHP 用紙は配布する
- ペンは貸し出す
(ただし数がないので大学で使って下さい。買っても大したことはない。)

内容について

- 「要旨の内容の箇条書化 + 式導出など要旨で省略した部分 + 実験結果」が基本
- 表紙と、結論のシートも一枚ずつ準備する
- \TeX で作る場合は、要旨を元にして、新しいページに変えたいところで `\newpage` 命令をはさむ

5 \TeX で OHP 原稿を作る

基本的な考え方は「小さい紙用に組版して大きく印刷する」というもの (\TeX はもともと持っている拡大印刷する機能を利用する)。

プリアンブル、つまり `\documentstyle` の後に

```
\textheight = 11cm  
\textwidth = 8cm
```

として、紙の大きさを小さく指定する。

印刷するときに

```
lprdvi -x -72 -y -72 -m4 happyou.dvi
```

のように拡大して印刷する。

`-m4` は字の大きさを $1.2^4 = 2.0736$ 倍に拡大するという意味。`-m3` ($1.2^3 = 1.728$ 倍に拡大) か `-m4` くらいがお勧め。

`-x -72` は x 軸方向に -72 ポイントずらす、つまり左に 72 ポイント (約 1 インチ = 2.54 cm) 詰めるという意味。

`-y -72` は y 軸方向に -72 ポイントずらす、つまり上に 72 ポイント (約 1 インチ = 2.54 cm) 詰めるという意味。

(ずらしの値は試行錯誤。環境が変わって久しぶりにやったら $-90, -144$ くらいだった。)

なお `dvips` を使う場合は (現在はこっちが普通であろう)

```
dvips -x 2074 -0 -3cm,-4cm happyou.dvi
```

のようにして拡大する ($2074/1000$ 倍に拡大、左に 3cm 、上に 4cm ずらす)。 2074 は `magstep 4` に対応しているが、`magstep 3` ならば 1728 となる。